

太平洋上作有り（安達漢城）

日は浪より昇つて又波に沈む

海水洋洋紫色多し

鵬影飛ばず鯤躍らず

碧空万里白雲過ぐ

日昇於浪又沈波 海水洋洋紫色多
鵬影不飛鯤不躍 碧空萬里白雲過

解説 太平洋上にあつて日の出、日没という自然のいとなみと海の雄大さを詠じたもの。

語釈 ※日〓太陽。※浪〓波に同じ。※洋洋〓遠くまでゆるやかにのびのびとした様子。※鵬〓おおとり。想像上の大鳥。※鯤〓想像上の大魚。※碧空〓青い空。

通釈 見渡す限り水また水の太平洋にあつては、太陽も波のなたから昇り、波のなたに沈むのである。目に映る限りの海水は洋々として広がり、一面紫一色である。鵬も飛ばず、鯤も躍り出ることのない静寂な太平洋、果てしない青空に白雲が静かに流れて行く。